QUALITY

クオリティーの採用がわかる
入ったけど「なにか違う」を埋める資料

ミスマッチはお互い不幸

私たちは、AED の販売から障害児支援、就労支援、訪問看護、高齢者向け食事サービスからグループホームまで、人々の暮らしと命を支えるさまざまな事業に取り組んでいます。私たちが大切にしているパーパスは、「上質な明日を。幸せな未来を。」この言葉には、利用者や地域社会だけでなく、ここで働く社員一人ひとりの毎日も、より良いものにしたいという想いを込めています。

一方で、私たちは決して大きな会社ではありません。求人市場において、条件や知名度だけで勝てる企業でもありません。だからこそ私たちは、「できるだけ多くの人に応募してもらう」採用ではなく、「お互いに納得したうえで、一緒に働く」採用を選びました。

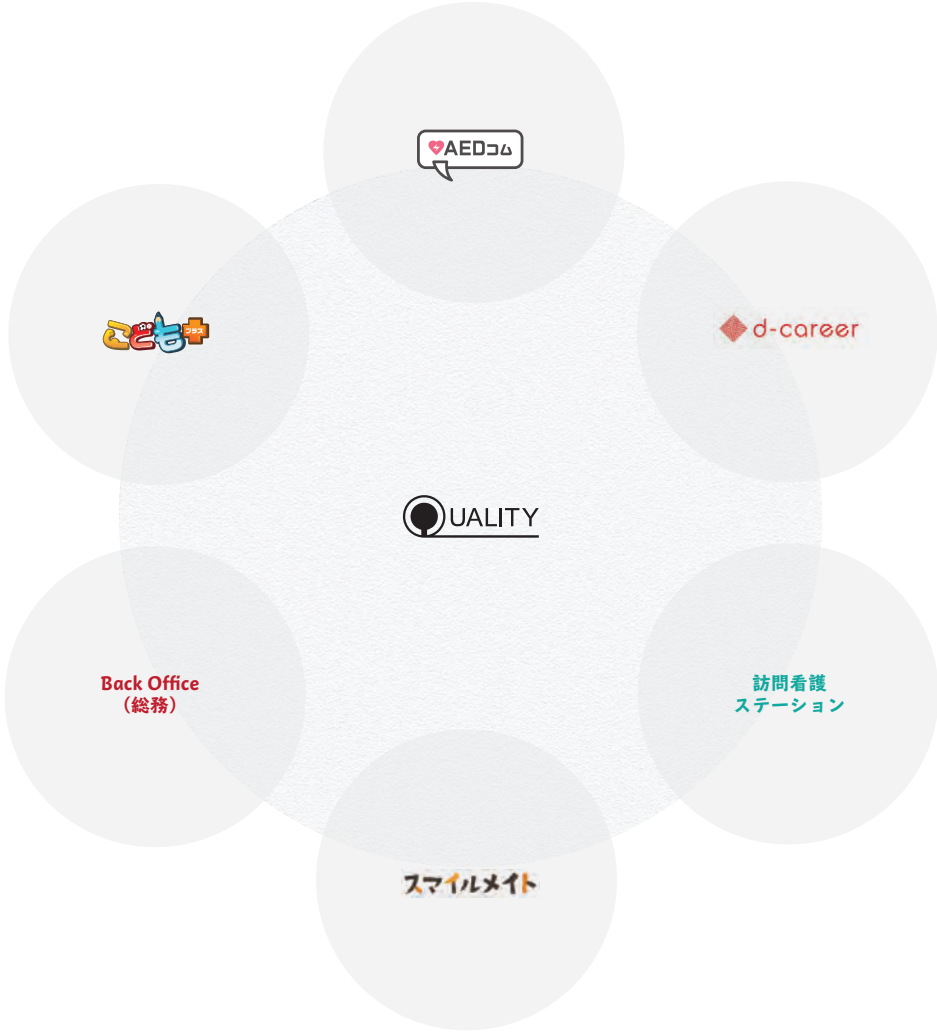
このホワイトペーパーは、私たちとあなたのギャップを埋めるために作りました。求人票だけでは伝えきれない、会社の考え方、仕事のリアル働く環境の実情、向いている人・向いていない人を、できる限り正直にお伝えするための資料です。

この資料を読み終えたとき、「ここで働く自分が想像できるかどうか」それが、私たちにとって何より大切な答えです。



ここが、他社と違う。

カンパニー制



クオリティーでは、事業部ごとに独立採算で運営する「カンパニー制」を導入しています。そのため、事業部ごとに休日や給与形態が異なります。各事業部が一つの“会社”として、自らの売上をもとに経営判断を行うことで、現場の声を起点としたスピーディーな意思決定と、事業の高い専門性を育んでいます。事業部ごとの裁量権が大きいため、社員一人ひとりがお客様・経営・仲間・自分と向き合いながら、事業を成長させていく手応えを感じられます。年齢や社歴に関わらず、成果に応じて責任あるポジションを任される機会が多いことも特徴です。

就労移行支援事業部

d-career

私たちの仕事は「とにかく就職させる仕事」ではありません。
不安やつまずきを抱えた「働きたい」を続く形にする仕事です。







主な業務内容

就労移行支援の仕事は、「教える」よりも「寄り添う」業務が中心です。

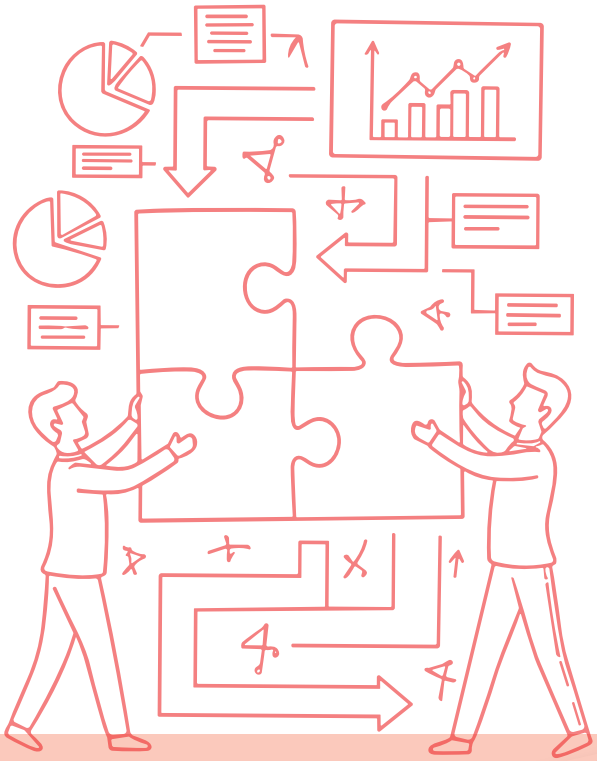
- 利用者一人ひとりの体調・気分・不安のヒアリング
- 状態に応じた訓練内容・声かけの調整
- 就職に向けた書類作成・面接練習の支援
- 企業・関係機関との連携・調整
- トラブル時の対応やフォロー
- 記録・報告書作成などの事務業務

日々の小さな変化に気づき、それを信じて関わり続ける仕事です。

現場の声や１日の流れ
▶ https://recruit.qat.co.jp/staff/dcareer1/

「辞めずに続けられています」
という連絡が、何よりうれしい。





実際に続いている人の傾向を、
次のページにまとめました

この仕事のやりがい

「働くのは無理だと思っていました」そう話していた人が、少しずつ前を向き、自分の力で一歩を踏み出していく過程に立ち会えること。その変化を、一番近くで見続けられることが、この仕事の価値です。
初めて笑顔で「今日、楽しかったです」と言ってくれた瞬間。何度もつまずいていた人が、自分で立て直せた瞬間。就職後に「まだ続けられています」と連絡をもらえたとき。
どれも派手な成果ではありません。けれど、誰にも評価されなかった努力や変化を、確かに積み重ねてきた時間があります。
人の人生の途中に関わり、「できない」が「できるかもしれない」に変わる瞬間に立ち会える。その実感こそが、この仕事の何よりのやりがいです。

正直大変なところ

就労移行支援の仕事は、成果がすぐに見える仕事ではありません。
関わっても、声をかけても、変化が感じられない日が続くこともあります。数週間、数か月、ときには年単位で「待つこと」そのものが仕事になる場面もあります。
利用者の体調や気分に左右されることも多く、予定通りに進まないのは日常です。同じ悩みや失敗の話を何度も聞き、正解のない対応を求められることも少なくありません。
また、人と深く関わる仕事だからこそ、相手の背景や気持ちに触れる場面もあります。その分、感情の距離感を意識しながら関わることが求められます。
前向きな気持ちを大切にしながら、現実と向き合い続ける仕事です。迷ったときには、仲間がそばにいます。

この仕事に、
向き・不向きが出る理由



就労移行支援の仕事は、善意や気持ちだけで成り立つ仕事ではありません。
だからこそ、柔軟に考え、自分の経験や価値観を活かしながら、矛盾や迷いと向き合い続けられる人が活躍しています。
そうした関わりの中で、誰かの「できない」が「できるかもしれない」に変わる瞬間に立ち会える。その実感は、この仕事ならではのものです。
支援する立場でありながら、気づけば一番試され、成長しているのは自分自身。人と本気で向き合いたい人にとって、やりがいのある仕事です。

この仕事に向いているのは、こんな人

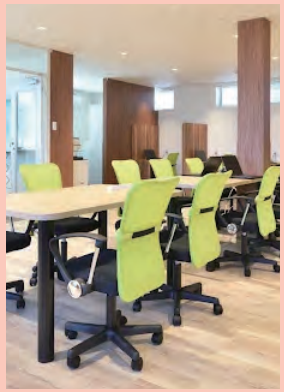
- 人と向き合う仕事に価値を感じる
- 迷いながらでも、考え続けることができる
- 「できなかったこと」より「続けられたこと」に目を向けられる
- 自分の状態にも目を向け、整えながら働きたい
- チームで支え合いながら仕事をすることが苦ではない



向いていないと感じやすいのは、こんな場合

- 成果が数字やスピードで見えないと不安になる
- 相手の人生すべてを何とかしなければと思ってしまう
- 気持ちの切り替えが難しく、仕事を引きずってしまう
- 明確な正解や成功パターンを求めてしまう

※ここに当てはまるからといって「不向き」と決めつけるものではありません。



児童発達支援事業部

指定障害児通所支援・放課後等デイサービス

私たちの仕事は「障がいのある子の学童」や
「こどもを預かる仕事」ではありません。
「運動療育」を通して「こども達の成長と発達を後押しする」仕事です。







主な業務内容

こども達の一日を支えながら、成長につながる関わりを積み重ねていきます。

- 送迎業務（園や自宅 ⇔ 教室）
- 運動療育
- 制作活動 など
- 保護者様へのサービス提供記録の作成
- 療育の記録
- 療育内容の組み立て
- 道具や教室の掃除・消毒

【随時】

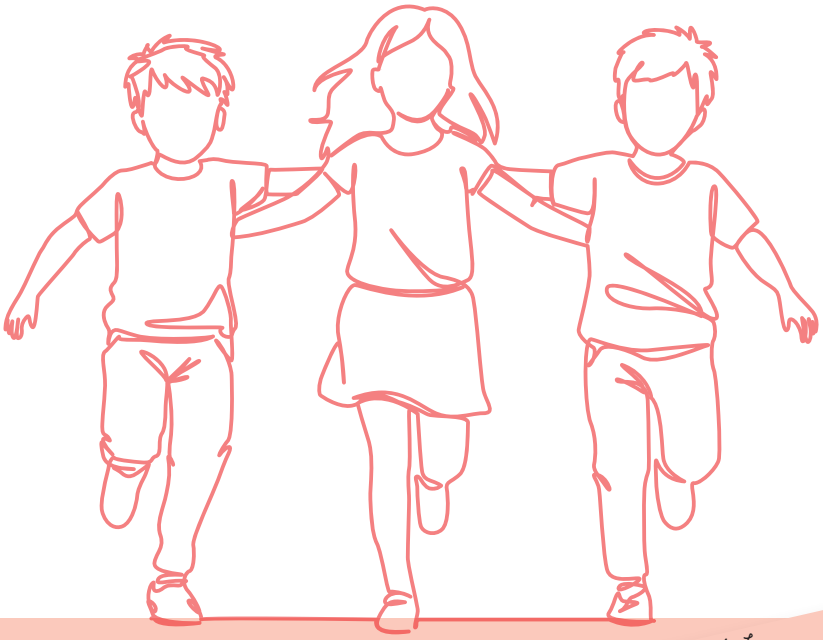
- イベントの企画・準備
- 支援計画会議
- 各種研修



現場の声や１日の流れ
▶ https://recruit.qat.co.jp/staff/kodomo1/

できることが、
少しずつ増えていきます。





実際に続いている人の傾向を、
次のページにまとめました

この仕事のやりがい

一番のやりがいは、**こども達の毎日の変化を、いちばん近くで見られること**です。
昨日まで嫌がっていたことに、今日は少し挑戦できた。できなかった動きが、ある日ふとできるようになった。
そんな小さな変化が、日常の中にたくさんあります。運動療育や制作活動を通して、こども達が「できた」「楽しい」と感じてくれる瞬間に立ち会えることは、この仕事ならではの喜びです。
また、支援は一人で行うものではありません。チームで話し合いながら関わり方を工夫し、その子に合った支援が見つかったときには、現場で確かな手応えを感じることができます。
そして、保護者の方から「家でも変化がありました」「本当に助かっています」と声をかけていただいたとき、日々の関わりが、こども達と保護者の生活につながっていることを実感します。

正直大変なところ

児童発達支援の仕事には、体力的・精神的に大変だと感じる場面もあります。
運動療育や日常の支援では体を使うことが多く、体調を崩したり、身体を痛めたりすると、仕事の大変さを実感することもあります。
こども達の癇癪や大きな声、突発的な行動に日常的に向き合うため、気持ちの切り替えや、感情のコントロールが必要になります。
また、関わった結果がすぐに見えるとは限りません。工夫しても、なかなか変化を感じられない日が続くこともあり、長い目で見守る姿勢が求められます。保護者対応では、言葉選びや配慮が欠かせません。
送迎業務や、支援方法をスタッフ間で揃えていくことも簡単なことではありません。

この仕事に、
向き・不向きが出る理由



児童発達支援の仕事は、「こどもが好き」という気持ちだけで続けられる仕事ではありません。
こども一人ひとりの特性や、その日の状態に合わせて関わり方を変えたり、うまくいかなかった支援を見直したりと、正解のない場面に日々向き合う仕事です。
現場での判断や悩みを、すべて一人で抱える必要はありません。複数の教室を横断してサポートする体制（業務支援課）があり、
必要に応じて、経験のある立場からの視点やアドバイスを受けることができます。
支援の進め方だけでなく、日々の業務量や働き方についても話し合いながら、無理が出ていないか、続けやすい形になっているかを一緒に考えていきます。

この仕事に向いているのは、こんな人

- 切り替えがうまい人
- ポジティブな人→療育がうまくいかない日があっても、切り替えて他の方法を考えられる
- 支援方法や方針をチームで共有することが大事なので、うまくコミュニケーションがとれる人
- 感情の切り替えができる人→同僚にもこどもにも感情的にならない
- チームで支え合いながら仕事をすることが苦ではない



向いていないと感じやすいのは、こんな場合

- チームで方針を共有したり、話し合ったりすることが苦手なとき（支援は個人プレーでは進められません）
- 「こうあるべき」という理想が強く、支援が思い通りにいかないと気持ちを切り替えにくいとき
- 失敗やうまくいかない出来事を、必要以上に引きずってしまうとき
- こどもや周囲に対して、感情が表に出やすく、冷静さを保つのが難しいと感じるとき
- 自分の考えを優先しすぎて、他のスタッフの意見を受け取りにくくなっているとき



訪問看護事業部

指定訪問看護

利用者様の生活の場に入り、
その人らしい暮らしを医療の視点から支える仕事です。







主な業務内容

利用者様のご自宅を訪問し、日々の生活に寄り添いながら、必要な看護を提供していきます。

- 健康状態の観察・アセスメント
- 医師の指示に基づく医療処置
- 服薬管理・医療機器の管理
- 清潔ケアや日常生活の支援
- ご本人やご家族への相談対応・助言
- 訪問記録・報告書の作成
- 多職種（医師・相談支援専門員等）との連携

【随時】

- カンファレンス・ケース検討
- 研修・勉強会



現場の声や１日の流れ
▶ https://recruit.qat.co.jp/staff/homon1/

その人の「生活」に、
医療で関わる。





実際に続いている人の傾向を、
次のページにまとめました

この仕事のやりがい

訪問看護のやりがいは、**一人ひとりの生活に、じっくり向き合えること**です。
病棟勤務とは違い、利用者様のご自宅で1対1で向き合い、話を聞き、関わる時間があります。日々の生活リズムや体調、気持ちの変化を見ながら、その人に合った関わりを積み重ねていきます。

関わり方一つで、表情が少し和らいだり、「今日は大丈夫そう」と感じられたりすることがあります。
そうした小さな変化を、利用者様・ご家族と一緒に感じられることが、この仕事ならではのやりがいです。
また、入院が長く続いていた方が退院し、在宅での生活を支える中で「退院してよかった」「ありがとう」という言葉をもらえることもあります。医療としてだけでなく、生活を支えている実感を持てる瞬間です。

正直大変なところ

精神的な不調を抱えている利用者様から、病状によって強い言葉を向けられてしまうこともあります。重い話を聞いたあとでも、次の訪問に向けて気持ちを切り替えなければなりません。

また、すぐに変化が見える仕事ではありません。精神科の訪問看護は長い時間をかけて関わることが多く、結果を急ぎすぎると、つらさを感じやすくなります。

利用者様に寄り添う一方で、感情移入しすぎない距離感を保つこと。そのバランスの難しさが、この仕事の大変なところでもあります。

この仕事に、
向き・不向きが出る理由



訪問看護では、利用者様の生活の場に入り込み、日常生活や心の状態、治療の継続までを支えていきます。
入浴や身だしなみ、金銭管理、外出など、生活の細かな部分に関わることもあれば、気分の変化や不安、症状の揺れに向き合う場面もあります。
話し出すと止まらない方もいれば、なかなか気持ちを話してくれない方もいます。また、治療を続けるための支援として、服薬の確認や声かけ、通院の促し、
医師や関係機関との情報共有も欠かせません。こうした関わりは、一つひとつが正解かどうか、すぐには分からないことばかりです。
だからこそ、結果を急がず、利用者様のペースを尊重しながら関わり続ける姿勢が求められます。この仕事に向き・不向きが出るのは、**「生活に深く関わり続けること」そのものが仕事だから**です。

この仕事に向いているのは、こんな人

- 感情を切り替えながら、人と向き合える人
- 一人で抱え込まず、周囲と連携しながら支援できる人
- 利用者様の考えやペースを尊重できる人



向いていないと感じやすいのは、こんな場合

- 利用者様のつらさを受け止めすぎて、自分が苦しくなってしまうとき
- 結果を早く出そうとしてしまい、変化が見えないことに焦りを感じるとき
- 自立を支えるつもりが、必要以上にサポートしてしまう場合
- 訪問に伴う車移動が負担に感じやすい場合



障がい者
グループホーム

スマイルメイト

理想の「暮らしの場」を創る。
無理なく、自分らしく
暮らせる環境を整えます。









主な業務内容

グループホームでの仕事は、日々の生活を支える幅広い業務があります。

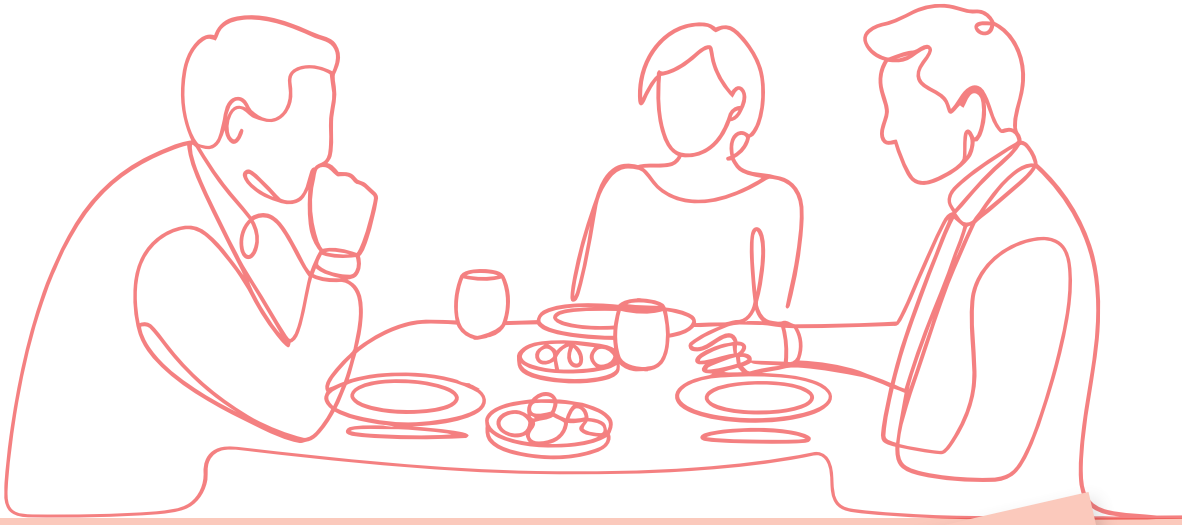
- お食事の提供
- 掃除や洗濯の支援
- お話相手や相談の対応
- 服薬の支援（飲み忘れや過剰摂取の防止）
- 体調管理
- 住居設備の対応（水道・洗濯機・エアコンなど）
- 支援記録、日報の入力

【随時】

- 緊急時の対応（体調不良）
- 利用者同士の調整
- 利用者からの苦情や要望への対応
- 朝の通所先への送り出しや声かけ

「ここで暮らしていきたい」と
思える日常を支える。





実際に続いている人の傾向を、
次のページにまとめました

この仕事のやりがい

やりがいを感じる瞬間は、利用者との関係が少しずつ築かれていくときです。最初は距離があった関係が、日々の会話や何気ないやり取りの中で、少しずつほぐれていく。

自然に笑い合えたり、困りごとを打ち明けてもらえたり。「ここは落ち着く」と感じてもらえていると分かったとき、この仕事の意味を実感します。

支援をしているというより、一緒に生活を整えている感覚。その積み重ねが、利用者の安心につながっていきます。

正直、簡単ではないところ

一方で、生活の場だからこそ、感情のやり取りも日常の一部です。
気に入られていないと感じることや、強い言葉を向けられることもあります。

利用者同士の関係調整や、過剰な要望への対応が重なることもあります。
寄り添う気持ちは大切ですが、ルールや距離感を守ることも同じくらい大切です。

この仕事に、
向き・不向きが出る理由



グループホームは、支援の場であると同時に、利用者にとっては「生活の場」です。毎日顔を合わせ、
同じ空間で時間を過ごすからこそ、関係は自然と近くなります。だからこそ、すべての利用者と相性が合うとは限りません。
それでも仕事として関わり続けること。その日あった出来事を引きずらず、また次の日も同じように向き合うこと。寄り添うことは大切ですが、
寄り添いすぎてルールを超えてしまうと、共同生活のバランスが崩れてしまいます。距離を取りすぎても、距離を縮めすぎても成り立たない。
この“ちょうどよい関わり方”を考え続けることが、この仕事の難しさであり、向き・不向きを分ける理由です。

向いているのは、こんな人

- 感情を引きずらずに切り替えられる人
- 割り切って考えられる人
- 人の違いを受け入れられる人
- 攻撃的な言動をしない人
- 悩みやアイデアを一人で抱えず、チームで共有できる人
- 適切な TPO で報連相ができる人



向いていないと感じやすいのは、こんな場合

- 利用者に感情移入しすぎてしまう場合
- ルールより気持ちを優先してしまう場合
- 相性の合わない相手との関わりが強いストレスになる場合
- やり方を柔軟に変えられない場合
- 上司や同僚に報連相をせず、我流で仕事を進めてしまう場合
- 一人で業務や悩みを抱えてしまう場合



総務部

労務・経理

カンパニー制の潤滑油であり、同時にブレーキでもある。







主な業務内容

- 勤怠管理、給与計算、社会保険、労災、年末調整
- 入退社手続き、雇用契約書作成、制度設計、集計業務
- 社内規程の整備・改定
- 各事業部の収支作成、経費精算
- 従業員からの問い合わせ対応（給与、手当、制度など）
- 労基署・年金事務所・健保組合・税務署・税理士・社労士への対応
- 支社内イベントの企画・運営
- 他事業部との調整や板挟み対応

思っている以上に幅広く、細かい業務が多くあります。
イレギュラー対応や突発対応も日常的に発生します。

表に出ないところで、
組織を守る。





実際に続いている人の傾向を、
次のページにまとめました

この仕事のやりがい

やりがいは、トラブルを未然に防げたときです。

大きな問題になる前に気づき、静かに収束させることができたとき。
何も起きなかった一日が、成果であることもあります。

また、全事業部と関わるため、組織全体の動きが見える立場でもあります。幅広い視点で学び続けられる仕事です。

正直、しんどいところ

総務の仕事は、「できて当たり前」とされやすい仕事です。

ミスは許されにくく、感謝よりも指摘が先に届くこともあります。カンパニー制であるがゆえに、事業部と経営、社員と会社の間に立ち、板挟みになる場面も少なくありません。

また、「前例がない」「ルールに書いていない」案件も多く、判断を求められる場面が日常的にあります。感情的な相談や不満を受け止めることも業務の一部です。

この仕事に、
向き・不向きが出る理由



総務部の仕事には、明確な正解が用意されていない場面が多くあります。
ルールを守るだけでは解決しない。しかし、守らなければならない線もある。
その間で考え、判断し、説明することが求められます。
また、裏方の業務が中心のため、目に見える成果や感謝を直接感じにくいこともあります。
人の感情や立場の違いに触れながら、冷静さを保ち続ける仕事です。

向いているのは、こんな人

- 感情と仕事を切り分けられる人
- 正解がなくても考えて判断できる人
- 自ら動ける人
- 忍耐強い人
- 守秘義務を守れる人



向いていないと感じやすいのは、こんな場合

- 感情を引きずりやすい場合
- 白黒はっきりした答えを常に求める場合
- 感謝や評価が直接見えないとモチベーションが下がりやすい場合
- 指示がないと動きづらい場合



AED 事業部

AED の普及を通して、救命の可能性を広げる仕事。
インターネットを活用して AED を届け、
設置だけでなく「使える社会」を広げていく仕事です。







主な業務内容

- AED および関連商品の販売
- Web サイト・EC サイトの運営
- インターネット広告の企画・運用
- お問い合わせ対応・導入相談対応
- 見積作成・注文対応
- 発注業務・納品手配
- メーカーや取引先との調整
- 商品ページ・コンテンツ制作
- 販売データの分析・改善
- 新サービス・新商品の企画
- AED 普及に関する情報発信

現場の声や１日の流れ
▶ https://recruit.qat.co.jp/staff/aed1/

あなたが届けた一台が、
誰かの命を救うかもしれません。





実際に続いている人の傾向を、
次のページにまとめました

この仕事のやりがい

AED は、いざという時に人の命を救う可能性がある医療機器です。
そのため、設置が増えること自体が社会にとって意味のあることになります。

私たちの仕事は、企業や団体、施設などに AED を届けることで、
「いざという時に備える環境」を社会に増やしていくことです。

普段は実感しにくい仕事ですが、社会のどこかで役立つ可能性のある仕事です。

正直大変なところ

AED は頻繁に購入される商品ではないため、
広告運用やサイト改善、コンテンツ制作などを通じて、
問い合わせにつながる仕組みを地道に作っていく必要があります。

また、見積作成や発注・納品手配、メーカーとの調整など、
細かい業務を正確に進めることも求められる仕事です。

この仕事に、
向き・不向きが出る理由



AED 事業部の仕事は、広告運用、Web サイト運営、顧客対応、受発注・納品対応など、複数の業務が分業で進んでいます。
それぞれの業務がつながることで AED が必要な場所へ届いていきます。
そのため、自分の担当業務だけでなく、他のメンバーと情報を共有しながら仕事を進めていくことが重要になります。
また、改善や新しい取り組みも多いため、指示を待つだけではなく、自分で考えて動く姿勢も求められる仕事です。

この仕事に向いているのは、こんな人

- チームで仕事を進めることができる人
- 自分で考えて行動できる人
- 改善や工夫を楽しめる人
- インターネットや仕組みづくりに興味がある人
- 社会に役立つ仕事に関わりたい人



向いていないと感じやすいのは、こんな場合

- 自分の担当業務だけに集中したい場合
- 指示がないと動きづらい場合
- チームでの情報共有や連携が苦手な場合
- 変化や改善が苦手な場合

※ここに当てはまるからといって「不向き」と決めつけるものではありません。

